## 鬼北句会

跳び上がる猫をかわしぬ秋の蝶　大川　眺春
ひっそりと我が身飾るや草紅葉　毛利　知子
菊花展頷きながら愛でゆけり　善家　信景
大枯野ところどころを日の渡り　善家　三代
高原の風に吹かれて草紅葉　善家　章
街の灯の靄にうるみて秋深し　今西　英子
どんぐりや享年立歳妹の墓　武田　幸子
草紅葉廃校に在る開墾碑　二宮千代子
棲み馴れし庭の蹲小鳥来る　二宮　友子
深々と湖水に映える山紅葉　松岡　寛孝
いくばくの齢のあるや草紅葉　芝　都留
形見分けしつけのままの秋袷　新倉地映子
刈後の仕事ほしそな案山子達　芝　光恭
椅子一つ犬と分ちて十三夜　白敷フサ子
宇和海を見下ろす崖や石蕗の花　上甲　斗志

## きほく川柳会

半眼に閉じた仏に見透かされ　渡辺　光男
蹴るボール投げるボールへ人の波　宇都宮七郎
模擬弾で叱った父の愛を知る　宇都宮　孝
本心は作り笑いの底にある　大沢和希子
赤い夕陽に明日を誓う草野球　大野モモヱ
免許取り赤い車に母を乗せ　大本ミヤ子
妥協する首は上下に振ればよい　栗木　一郎
思いきり泣いて女が強くなり　小越　安隆
老いの頑張り後でこたえた足と腰　芝　智恵子
敗者復活次はいいこときっとある　清家　厚美
よくできて黄金色したコシヒカリ　武田　浅美
再会の握手に言葉などいらぬ　高田トヨ子
あの世でも夫婦でいたい借りがある　若宮　賢敬
勝って泣く熱い涙が美しい　畠山　千歳
人の世の儚さ風の色読めず　兵頭　紀子
今更に恋をせよとは無理なこと　水野　貞子

## 大きくなったら

### 広見中学校